

感染性胃腸炎の集団発生について

中央区内の市立小学校において、感染性胃腸炎の集団発生がありましたので、感染予防・注意喚起の観点から、お知らせします。

感染性胃腸炎は、年間を通して発生しますが、特に冬季に多く発生し、学校、保育所、社会福祉施設など集団で生活する施設では、集団感染になる場合がありますので、注意が必要です。

1 施設

中央区内の市立小学校

2 発症者

(1) 発症者数

64人（11月28日（水）正午時点）

※内 訳

児童62人、職員2人（入院等を必要とする重症者はなく、全員快方に向かっている。）

(2) 主な症状

嘔吐、下痢

3 発症状況等

11月22日（木） 教育委員会保健体育課より市保健所に、嘔吐、下痢などの消化器症状を児童39人が発症している旨の連絡があった。

同日、現地調査を実施し発症状況等の確認を行うとともに、施設に対し、消毒や手洗いの徹底などを指導した。

11月28日（水） 発症患者が合計64人となり、市環境保健研究所で実施した便の検査において2検体からノロウイルスが検出されたことから、市保健所は、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団感染であると判断した。

4 市内における感染性胃腸炎集団発生件数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
発生件数	63	18	6

(※平成30年度は11月28日現在で本件を含む)

【感染性胃腸炎について】

1 感染性胃腸炎の原因となるウイルスは？

ノロウイルスやロタウイルスなどで、ヒトの小腸で増殖し、嘔吐や下痢等を起こすウイルスです。冬は、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が多くなります。

2 症状は？

吐き気、嘔吐、下痢、腹痛が主症状で、発熱（38℃以下）を伴う場合もあります。感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。

3 潜伏期間は？

- ・ 24～48時間で、発症後、通常3日以内で回復します。
- ・ 健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することもあります。

4 感染経路は？

- ・ 感染した人の便や吐物に触れた手指などを介して、ウイルスが口に入ると感染します。
- ・ 便や吐物が乾燥して、細かな塵と舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを体内に取り込んでも感染します。
- ・ 感染した人が、調理によって食品を汚染すると、その食品を食べることによって感染します。
- ・ ノロウイルスに汚染されたカキやシジミなどの二枚貝を、生または不十分な加熱処理で食べると感染します。

5 治療は？

- ・ ノロウイルスに効果のある抗ウイルス薬はありません。
- ・ 脱水症状がひどい場合は、輸液を行うなど対症療法が行われます。
- ・ 症状がなくなったあとも、1～2週間ほど便中にウイルスが排出されるため、二次感染に注意が必要です。

6 予防対策は？

- ・ 吐物・便等による汚染は、感染の原因となるため、速やかに適切に処理し消毒しましょう。
- ・ 用便後、調理作業の前後にはよく手を洗いましょう。
- ・ 調理をする人は、下痢や風邪などの症状があるときは、食品を直接取り扱わないようにしましょう。
- ・ カキ等の二枚貝は、十分に加熱してから食べるようにしましょう。（85～90℃で90秒以上）